

●プレゼンテーション

PIS患者認識システムについて 1,2

○大竹 雅幸(株式会社テクノメディカ 医療ソリューション開発部)

P I S 患者認識システムは『患者さんの取り違え』による医療過誤の防止を主眼としたバーコードを利用した患者確認システムである。

※P I S (ピーアイエス)=Patient Identification System
これは「いつ」「誰が」「どの患者さん」を確認して「何を」処置したのか、など詳細記録を残すことで正確で安全な医療業務の遂行を支援するシステムである。

患者様には患者 I D 番号をバーコード化してリストバンド等の形態にて装着していただく。

一方ではドクターからの処置・依頼内容を特定するためにオーダー番号等をバーコード化したラベルを作成。注射・点滴ボトル等に貼り付け準備する。

ベットサイドにおいてはバーコード読み取り装置が内蔵された携帯端末装置を利用して、それらのバーコードを読み取り、処置を行う直前に患者さんと依頼内容を照合確認することで取り違え等の事故を未然に防ぐことができる。

昨今、患者取り違えミスに始まる医療過誤の防止対策については、確実に安全なシステム整備が急務とされており、

各施設においても創意工夫がなされている。

今回は、A u t o V u e 全自動輸血検査装置、B T D 輸血管理システム (オーソクリニカルダイアグノスティックス株) との連携により構築されたP I S 輸血確認システムについて、順天堂大学浦安病院、東京医科大学病院、日本医科大学付属第二病院等の運用例を中心に紹介する

P I S 患者認識システムは輸血確認に限定することなく、複数の医療情報システム (オーダーリングシステム等) と連携することで、バーコードを利用した投薬確認、手術予定確認、検査予定確認、採血確認、投薬材料準備確認など、医療施設内のあらゆる現場での確認と記録が可能である。

また患者基本情報 (感染症注意情報) 表示などで医療従事者は患者様の病態を認識し、感染事故防止等にも貢献できるものである。